公報

○大藏省甲第六十號　府縣

本年(五月)第拾壹號布告ヲ以テ證劵印稅規則改正相成候ニ付右檢査規程左ノ通相定ム

右相達候事

明治十七年八月十三日　大藏卿　山縣有朋

證劵印稅檢査規程

第一項　府縣收稅官吏ハ明治十七年第拾壹號布告證劵印稅規則第八條ニ記載セル證書帳簿ノ檢査ヲ行フベシ

第二項　檢査ヲ分テ二ト爲シ一ヲ定期檢査トシ一ヲ臨時檢査トス

第三項　定期檢査ハ毎年四五六ノ三ケ月間ニ於テ之ヲ行ヒ臨時檢査ハ該檢査ヲ必要トスル場合ニ於テ之ヲ行フベシ

第四項　檢査員ヲ派遣スルニハ府縣管内ヲ數部ニ區畫シ毎部其擔當員二名以上ヲ定ムベシ

第五項　檢査員ハ其擔當部内ノ商況戸數及路程ノ遠近ニ應シ一町村若クハ數町村ヲ以テ一區トシ區内ノ便宜ヲ量リ檢査場ヲ設クベシ

第六項　檢査員ハ豫メ檢査日割ヲ定メ其日割及前條檢査場ヲ其區内ノ町村ニ告知スベシ

第七項　臨時檢査ノ節ハ時宜ニヨリ前第五項第六項ノ手續ヲ履行セサルヿアルベシ

第八項　檢査ハ力メテ便捷ヲ要シ人民ノ營業ニ障害ナキヲ圖ルベシ

第九項　檢査員檢査ノ要領左ノ如シ

一證書帳簿上印紙貼用ノ有無當否

一帳簿見積金高及使用期限紙數記載方ノ有無當否

一貼用印紙消印ノ有無當否

一印紙再貼用又ハ印紙僞造變造ノ有無

一帳簿調製上詐僞ノ有無

一證書帳簿差出方店舖商況ニ相應スルヤ否

第十項　檢査員ハ豫メ帳簿ヲ備ヘ受檢査人ノ宿所職業姓名及證書帳簿ノ種類員數ヲ記載スベシ

第十一項　證書帳簿ノ檢査ヲ受ケザルモノ又ハ之ヲ受クルモ尙疑訝ニ涉ルモノアルトキハ直チニ本人家宅ニ就テ檢査ヲ爲スベシ

第十二項　檢査員ハ檢査セシ證書帳簿ニ檢印スベシ

第十三項　檢査濟證書帳簿ノ種類員數及犯則ニ係ル證書帳簿ノ員數ハ一回分取纏メ左ノ報告書式ニ傚ヒ收稅長ヨリ主稅局ニ報告スベシ

但臨時檢査ノ節ハ檢査ノ實況ヲ報告スベシ

（報告書式略ス）

敍任

○明治十七年八月十二日

任太政官大書記官　工部大書記官兼宮内大書記官參事院員外議官補從五位勳五等　林　董

任參事院議官補　太政官少書記官從六位　關　新吾

任函館縣大書記官　函館縣少書記官正七位　堀　金峯

任函館縣少書記官　函館縣松前郡長從六位　寺田　長輔

任大分縣收稅長　二等主稅屬　上田　恭德

時事新報

國力ノ平均恃ムニ足ラズ

千六百四十八年有名ナル「ウエストハリヤ」ノ平和會盟アリテヨリ歐洲各國ノ戰爭、同盟、談判ハ國力平均(バランス、オフ、パアー)ノ一主義ニ基キタルコハ人ノ能ク知ル所ナリ當時國力平均ノ主義ハ歐洲外交ノ定說ト爲リシカバ大國ハ互ニ相注意シテ弱小國ヲ併呑セシメズ若クハ之ニ干渉シテ獨リ其權力ヲ膨脹スルモノヲ制シ之ヲ制スルノ方便トシテハ各國相互ニ全權公使ヲ差遣シテ共ニ双方ノ事務ニ注意シテ事情必要ノ實際ニハ其國政府ヲ代表シテ談判照會ヲ行ハシムル爲メ之ヲ双方ノ首府ニ駐箚セシムルニ至レリ尤モ十七世紀中ハ歐洲ノ各國二群ニ分レ一群ハ則チ西南部ニシテ英、佛、西班牙、日耳曼等相比肩シテ平衡ヲ保チ又他ノ一群ハ北部ニシテ瑞典、嗹馬、波蘭、露西亞孰レモ之レガ白眉ト爲リテ共ニ其平均ヲ維持シタリシニ千七百三十年頃ニ至リテハ南北ノ二群合同シテ一ト爲リ其國力平均ノ區域ヲ廣メ一局部ノ紛紜ニテモ歐洲全體其痛痒ヲ感シテ事ノ全ク収マル迄ハ各國互ニ黨援シテ一國ノ併呑干渉ヲ許サヾルノ事態トハナレリ以上ハ全歐洲中ノ國力平均ナレ𪜈コノ國力平均主義ハ歐洲人ノ到ル處ニ隨從シテ十八世紀ノ半ニ至リテハ東洋ノ印度ニ於テモ其主義ヲ現ハシ當時印度ヲ分領シタル英、佛、葡、蘭ノ四箇國人ハ其殖民地ニ在テモ亦互ニ掣肘シ特ニ英國ガ佛蘭西及ビ荷蘭國ト開戰セシ際ニハ在印度ノ英國人ハ遠キ東洋ノ殖民地ニ在リナガラモ佛、蘭兩國ノ人ト戰端ヲ開キ或ハ其土地ノ酋長ニ結ビ或ハ其加勢ヲ假リテ各其既有ノ領分ヲ奪ヒ未有ノ土地ヲ得ザラシメント數戾丘ニ所獲ヲ爭フノ勢アリシカバ印度人ハ恰モ其間ニ在テ一時ノ小康ヲ保ツヿヲ得タリ左レバ國力平均ノ主義ハ獨リ歐洲各國ノ間ニ存立スルノミナラズ殆ンド其各國人個々ノ間ニモ浸染シテ到ル處ニ其主義ヲ現ハシタリト雖𪜈元來コノ國力平均主義ハ他ノ獨リ強シテ獨リ大ナランコヲ忌ムノ情ニ出タルモノニシテ一種ノ嫉妬心ト云フモ可ナリ即チ己レ獨リ強大ナルヲ得ザレバ他ノ獨リ強大ナルコヲ妨ケ恰カモ同強同大ノ地位ニ立テハ以テ甘心ス可シトスルモノナレバ或ハ稍ヤ數理ヲ離レタル痴情ト云フモ可ナランモ大國間ニ斯ル痴情妬心アル間ハ弱小國ハ其睨ミ合ヒノ際ニ在テ一時ノ獨立ヲ僥倖スルヿヲ得ベシト雖𪜈世事ノ沿革ハ人情ノ變化ニ由テ一種特別ノ奇相ヲ呈シ一旦コノ愚痴嫉妬ノ念ヲ脱却スルノ場合モアラバ反掌ノ間ニシテ弱肉強食ノ禍ニ罹ルヿトモナラン

上ノ如ク述ベ置キテ爰ニ一ノ不思議ト申スハ近來佛國ニテ頻リニ東洋ノ遠略ヲ事トシテ千八百六十一年ニハ交趾(コツチ)ヲ取リ其翌年ニハ東蒲塞(カンボヂヤ)ヲ以テ附庸ト爲シ本年ニ至テハ東京(トンキン)ヲ占領シ支那ヲシテ佛國貿易ノ爲メニ雲南兩廣ヲ開カシムルニ決シ現ニ郎松(ランソン)事件ニ關シテハ巨額ノ償金ヲ要求シテ剩ヘ臺灣雞籠ヲ砲撃シ今後ノ成行如何ナル可キヤ我輩トテモ之ヲ測知スル能ハザル程ナルニ在清歐洲各國公使ハ知ラザルマネシテ之ヲ看過シ英國公使ノ如キ斯ル困難ノ時機ニ際シ我ヨリ進デ兩國ノ間ニ立入リ仲裁停調ニ盡力スベキ地位ニ在リナガラ悠々暑ヲ西山ニ避ケテ風月ヲ樂ミ天下ニ清佛事件ナルモノアルヲ知ラザルガ如ク時機ノ切迫ナル事ノ重大ナルニ拘ハラズ唯佛國ノ我儘ニ任シテ之ヲ顧ミザルヿ即チ甚ナリ抑モ支那帝國ハ東洋第一ノ富源ニシテ貿易ノ中心トモ稱ス可キ國柄ナレバ條約各國ニ對スル通商上ノ關係ハ決シテ鮮少ナルモノニ非ズ特ニ支那ト密接ノ商縁ヲ有スル英國ガ佛國ノ傍若無人ナルヲ渓ニモセズ又其東洋ヲ我物顔ニシテ獨リ強大ヲ致スヲ見テ毫モ嫉妬心ヲ動カサヾルガ如キハ果シテ何ノ理由ゾヤ印度ニ於テハ國力平均ノ主義ニ據テ嘗テ佛國人ト對抗シタル英國人ガ今日ニ於テ故ナク其嫉妬心ヲ中絶スルノ謂ナシ又偶退人トテモ現ニ讎敵視スル佛國人ガ亞細亞ノ中原ニ跋扈シテ獨リ得々タルヲ見テ徒ニ之ヲ見宥(ミユル)ス筈ナシ然ルニ今日ノ實際ニ於テ英、獨等ノ各國ガ袖手傍觀喙ヲ其間ニ挾マズ殆ンド秦人ノ越人ノ肥瘠ヲ視ルガ如キノ現相アルハ決シテ偶然ニ非ザル可シ我輩ヲシテ試ニ一種ノ臆測ヲ回ラサシメバ右等ノ各國ハ極々秘密ニ條約ヲ定メ亞細亞ハ世界ノ富源ナリ然ルニ目下所有主其人ヲ得ズ因テ之ヲ略取スルニ就テハ先ヅ貴國ヨリ始ム可シ貴國ノ蠶食ヲ經營スル間ハ我等一切干渉セズ我等ノ遠略ニ取掛リタル折ニハ貴國モ亦干渉セザル可シトテ相遜讓スル所アルヤモ亦未タ測ル可ラズ目下歐洲ノ形勢ハ國ノ分限一定シ了シテ互ニ相侵スノ間隙ナク其間強テ侵略ヲ逞ウセントセバ恰カモ兩虎相鬪フノ勢ニシテ双方死傷アルヲ免カレズ喩ヘバ歐洲ノ諸強國ガ相互ニ其土地ヲ取ラントスルハ他人ノ廐ニ入テ養馬ヲ求ルガ如シ之ヲ買ハントスレバ大ニ金ヲ要シ之ヲ奪ハントスレバ大ニ力ヲ勞ス損益ノ數理ニ於テ策ノ得タルモノト云フ可ラズ然ルニ目下亞細亞ノ中原ニハ野馬ノ肥タルモノ到ル處ニ群ヲ成シテ然カモ其主人ノ遲鈍ナル所有ノ肥馬ヲ監視スルニ足ラズ歐人ノ伎倆ヲ以テスレバ赤手ヲ振テ之ヲ奪獲スルヿ易シ即チ亞細亞東部ノ遠略勞小功大ナル所以ニシテ各國皆コレヲ熟知スルヿナル可シ既ニ之ヲ熟知シナガラ徒ニ佛國ノ爲スガ儘ニ任スルトハ聊カ解ス可ラザルモノナキヲ得ズ是レ即チ我輩ヲシテ此歐洲各國間ニ或ハ一種ノ密約アルニハ非ズヤト漫ニ猜疑ノ念ヲ抱カシムル由縁ナリ或ハ一歩ヲ退テ斯カル密約ナシトスルモ各國以心傳心ニテ其密約通リノ意味ヲ默諾暗解スルヿハ決シテ疑ヲ容ル可ラザルガ如シ今日歐洲各國ニシテ佛國ノ所爲ヲ傍觀スルハ俗ニ所謂魚心アレバ水心アルモノニシテ異日其他ノ各國ガ亞細亞ニ事アラントスルニ際シテ佛國モ亦之ヲ妨クルヿナク甘ンジテ同窟ノ虎狼タル可シ左レバ歐洲各國ガ目下佛國ノ爲スガ儘ニ任シテ傍ヨリ其袖ヲ控ヘザルハ己レモ亦佛國ノ爲ス所ヲ爲サントスルモノニシテ昔日印度地方ニテ相互ニ奪略ヲ箝制シタルノ舊筆法ヲ襲カズ無算ノ痴情ヲ脱シテ有利ノ數理ヲ悟リ倶ニ與ニ他ヲ奪略シテ其間ニ國力ノ平均ヲ保タントスルモノナレバ現在支那ノ禍ハ唯支那ノミノ禍ニ非ズシテ東洋全體皆ナ其禍ニ罹ルノ運命ヲ有セリト覺悟セザル可ラズ左レバ歐洲ノ國力平均モ今日ハ以テ東洋ノ弱國ヲ庇護スルニ足ラズ若シ悠々閑過シテ之ニ聽スルノ用意ナケレバ靑蠅(サイイ)ノ安眠未ダ醒メザルニ早ク已ニ餓狙ニ上リ巨口一喙殼ト供ニ併呑セラルヽヿトモナラン故ニ我邦ノ人民モ今日支那ノ禍ハ唯支那ノミニ止マラザルヿヲ知リ我劍ヲ磨シ我銃ヲ備ヘ我民心ヲ調和シ我文明ヲ進メ明日トモ云ハズ今日唯今西島來テ東鼠ヲ呑マントスルヿアルモ其國勢ノ崢嶸嚴森ニシテ社會ノ文化開明ナルヲ見テ口ヲ噤シテ逡巡セシムルニ至ラシメンヿ我輩畢生ノ願望ナリ

雜報

○上海よりの電報　清佛事件は去る五日佛國軍艦が台灣の雞籠港を略取したる以來頗る切迫ある狀勢に陷りたれども其後格別急激ある電報もなく人々皆思案に餘り居るなとあるが昨日も終日何の報道も聞えざりしに漸く夜に入りて上海よりの飛報二三を聞き得たり其電報の文意左の如し

佛國公使パテノートルは飽くまで強く償金を要求して止まず尤も年賦拂にそることを承諾しられども其拂濟の日までは抵當として雞籠港を占領し居るべき旨を清國全權曾國荃に通知しより曾氏よりハ此旨北京總理衙門に電報し請訓したるに清國政府は此申出を拒絕したりといふ

佛軍ハ依然雞籠港を據守せり水師提督クルベーは福州よて清國軍艦を取圍めり

佛國公使も未だ清國政府れ決答を領受せず清國政府は結局何れの處置ゐ出るか目下疑ゐ確言し得る者なし

○雞籠(キールン)地勢　佛人が台灣れ雞籠港を押領(おうれう)したる由は數々記載せしが此雞籠港と云へるは台灣の北端北緯二十五度東經(けい)百二十一度内外に在り淡水(ダムシユイ)港れ東北ゐ當る小港ゐして元は西班牙の殖民地(しよくみんち)なりしが後に荷蘭(おらんだ)の爲めゐ奪はれ其後鄭成功(ていせいこう)の取る所とありて今は清國の版圖(はんと)に歸したる者あるが其近傍ゐは石炭山あれ共產出も少き上に品柄(しながら)も惡く且其產出は年々減少の勢ありて現に千八百八十一年には四萬六千百七十六噸を出したりしも同八十三年(即ち昨年)ゐは三萬一千八百十八噸ゐ減したり夫等れ爲めゐや支那政府にては嘗て此石炭坑を賣却せんとの相談もありしが其議も見合せゐなりたりと見え其後も同政府の手ゐ引續き採掘(さいくつ)に從事したる由元來台灣の開港場は打狗(ダコツ)、淡水、雞籠の三所なれ共外國貿易を行ふは昔前の二港ゐ於てし昨千八百八十三年中右二港れ輸出入額は一千零三十六萬三千二百六十六弗に達し關稅(くわんぜい)の收入額ハ七十五萬二千五百九十三弗に上り入港船舶の數は汽船、風帆船を合せて五百七十八艘此噸(とん)數二十四萬六千六百零二噸ありしが之に引替へ雞籠ハ僻地(へきち)ゐ在りて商賣に不便なる故にや外國との商賣もなく唯石炭の運搬としく淡水港と些少の取引を行ふのみなれば外國人の居留せる者とてもあく殆ど荒漠(こうばく)の地なりと云ふ左れば[illegible]に取りても餘り利益ある場所にはあらざるべけれど外國貿易の盛なる土地を砲擊などせんには害を他國に及ぼすの恐もあれば故らに未開の土地を撰り取るに至りたることあらんといへり

○佛國の内情　目下差迫りたる清佛の紛議は如何ある結局に至るべきやとは世人の專ら注目する所なれ共佛國の方[illegible]手を尽して事情を探問するも未だ確かなる報道を得ざれるゐ此程聞得たる所ゐ據れバ[illegible]手を引かば兎も角も左もなくば佛國は[illegible]も一層[illegible]思はるゝ[illegible]の各地に於て[illegible]支那兵を打破りゐる勢に乘して支那政